

国際シンポジウム

近代書壇の誕生

— 東アジア三地域の比較から —



「瑞雲書道会新年試筆展覧会」(『書道』第1巻第3号 1932年)

2021年 8月21日(土) 10時～16時30分

Zoom によるオンライン開催 ※日本語・韓国語・中国語 発表通訳あり

参加無料・要事前申込

参加申込は、QRコードまたは下記 URL より
(8月14日(土) 締切)

<https://forms.office.com/r/xhWGAuQVfF>



近代書壇の誕生

— 東アジア三地域の比較から —

書壇と称される書家たちのつながりは、それぞれの書家たちが結成・所属した種々の組織・団体を基盤とするところがあります。近代になると、書家たちは多岐にわたる組織・団体を活発に設立させますが、その動向は日本のみならず朝鮮や中国にも顕著で、地域によって独自色がうかがわれます。

このシンポジウムは、2018年に開催いたしましたシンポジウム「近代東アジアの書壇」の続弾として企画したもので、国立故宮博物院（台北市）の陳建志氏、国立中央博物館（ソウル市）の金昇翼氏の基調講演に加え、プロジェクトメンバー5名の研究発表と討議で構成いたしました。

今回は、前回のシンポジウムを踏まえつつ、近代に誕生した書壇そのものの研究に加え、それを生み出す背景にも留意しつつ、日本・朝鮮・中国の三地域における書壇形成のあり方を眺望しようと思います。

日 時：

2021年 8月21日（土） 10時～16時30分

Zoomによるオンライン開催 ※発表には日本語・韓国語・中国語それぞれの通訳があります。

主 催：

近代東アジア書壇研究プロジェクト

（代表者 菅野智明 日本学術振興会科学研究費助成事業 課題番号 17H02291）

申込方法：

8月14日（土）までに、右のQRコード、または以下のURLよりお申込みください。

無料でどなたでもご参加いただけます。

<https://forms.office.com/r/xhWGAuQVfF>



プログラム：

研究発表 10時～12時

- ① 清末民初における書画社団の規約について
- ② 近代日本人書家の朝鮮書芸との邂逅
- ③ 大阪市立美術館蔵「天発神識碑」の一考察
- ④ 大字仮名表現における安東聖空と正筆会の役割
- ⑤ 中村不折と高村光太郎に見る六朝書道

高橋佑太（筑波大学准教授）
金 貴粉（津田塾大学研究員）
下田章平（相模女子大学准教授）
高橋利郎（大東文化大学教授）
矢野千載（盛岡大学教授）

基調講演 13時～15時

① 曾熙と向燊（1905-1929）

陳建志 氏（国立故宮博物院助理研究員）

② 韓国近代書画壇の形成と書画家たちの実相

金昇翼 氏（国立中央博物館学芸研究士）

討議 15時15分～16時30分

司会 菅野智明（筑波大学教授）